

飯南

いいなん

議会報



バックナンバーも読めます。

第86号
令和8年7月20日

- 2 6月議会報告
町村議長会会長就任
- 3 可決した主な議案
令和8年度各会計補正予算
令和7年度からの繰越事業の報告
- 4-9 一般質問
- 10 採決の結果
議会活動報告／全員協議会の報告
- 11 常任委員会報告
- 12 明日を拓く



6月定例会を終えて

6月2日から12日まで11日間の日程で開催

今年は梅雨らしい天候となり、台風も例年より多く発生している。大きな災害に遭うことなく、収穫の時を迎えたいものだ。

ふるさと応援基金と未来人材育成基金を活用し、飯南高校支援
公用車の更新と海外留学の支援など、学校活動の環境整備と高校
魅力化を支援する。

インフルエンザワクチン接種では、75歳以上の方が高用量ワクチンを選択できるようになった。加齢による免疫機能低下や基礎疾患を持つ高齢者でも、より強い免疫応答を引き出すことができる。高額なワクチンではあるが、町独自の助成で接種価格を抑える接種を促進していく。

移動販売・宅配サービスを新たに始める事業者に創業支援補助金で支援する。

これらを盛り込んだ総額3600万円余の増額補正予算など、
予算案件6件と農業委員会委員14名の同意案件、税条例の一部改正など先決処分4件、その他条例関係など10件を議決した。

また、本会期直前に伊藤好晴議員が急逝され、欠員となった議会運営委員会の補充と委員長の選任、広報常任委員会の補充を行った。

可決した主な議案

条例関係

・飯南町犯罪被害者等支援条例の制定など6件

承認

・飯南町税条例の一部を改正する条例の制定など4件

予算

・令和8年度飯南町一般会計補正予算(第1号)など6件

諸議案

・農業委員会の委員の任命14件

・財産(消防軽積載車)の取得など4件

報告

・令和7年度飯南町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など2件

委員会委員の補充と委員長を選任

・議会運営委員会
補充委員 高橋 徹
委員長 安部 誠也
・議会広報常任委員会
補充委員 景山登美男

令和8年度 各会計補正予算 一般会計は 3633万円 増額

飯南高校支援バスの車両更新2659万円の増額、戸籍システム・住民基本台帳システム改修費用770万円の増額、事業所用住宅整備に関する定住対策補助金300万円の増額、志々小学校の閉校記念行事費用275万円の増額、インフルエンザワクチンの助成費用197万円の増額、人事異動等による人件費の1415万円の減額など

会 計 名		補正予算額	予算総額
一 般 会 計		3633万円	84億5969万円
特別会計	国民健康保険事業	-135万円	6億2243万円
	介護保険サービス事業	-17万円	4571万円
病院事業会計		-1120万円	14億6087万円
簡易水道事業会計		-424万円	5億4831万円
下水道事業会計		133万円	5億1279万円

令和7年度からの繰越事業の報告

事業の進捗状況により年度内に事業が完了せず、やむなく繰越しとした事業についての報告がありました。

会 計 名	繰 越 額	主 な 事 業
一 般 会 計	2億6361万円	・滞在型地域交流拠点施設 ・高齢者福祉施設整備事業 ・物価高騰対策関連事業 ・町道八神千原線整備事業 ・災害復旧事業 他
簡易水道事業会計	1064万円	・水道管支障移転工事

早樋徹雄議長が 島根県町村議会議長会会長に就任



令和8年5月25日に行われた島根県町村議会議長会臨時総会において、早樋徹雄議長が同議長会の会長に選任されました。
任期は6月21日から1年間です。

一般 質問

令和8年 6月定例会

町の自然環境保全を

景山 登美男 議員

Q 太陽光発電設備の設置条例を

地上設置型太陽光発電設備の設置が増えていることに伴い、土砂流出や濁水の発生、景観への影響、動植物の生息・生育環境の悪化などの問題が生じている。

そのため、その設置を規制することを目的とした「特化条例」が全国各地の自治体で制定されている。

本町の良好な自然環境及び景観等の保全、並びに災害の未然防止等を図る観点から、事業者に届出等の手続を求めるとともに、事業計画の内容を周知するために地域住民等を対象とした説明会



町内の大規模太陽光パネル

の開催を義務付けるなどを定めた条例を制定されてはどうか。

A ルールは必要

町長塚原隆昭

太陽光発電は、再生可能エネルギーの導入拡大に資する重要なエネルギー資源だが、近年、設置のための森林伐採による環境への影響や土砂災害のリスク、また民家近くでは反射光などの生活環境への影響が課題として指摘されている。

そのため、一定のルールを定めることは必要だと認識している。

限界の現場を見つめた土地利用を

平石 玲児 議員

Q 計画の実効性と出口戦略は

国の方針に基づき、農地集約を目指す「地域計画」が策定された。過酷な中山間地である本町では、特定の担い手への集中は移動コストや管理負担を増大させ、10年後には共倒れするリスクがある。

「絵に描いた餅」にしないための柔軟なバックアップ策と、現場を歩く「農地利用最適化推進委員」の機動力を活かして住民の本音を吸い上げ、計画の「地図」を更新していく仕組みを求める。

A 推進チームで 随時見直す

町長塚原隆昭

計画は随時見直し、目指すべき姿に近づけることが重要だ。関係機関による「推進チーム」で話し合いを支援する。

また、新任の農業委員・推進委員への研修等も実施し、地域内の取組を支える。

Q 多面的機能支払交付金を活用し人手不足解消を

農地管理の負担軽減について問う。

町内には土地が狭すぎて基盤整備すらできず、過酷な管理が続く未整備地域があり、取り残される危機にある。

また、多面的機能支払交付金は、協定書に「非農家の名前」を連ねれば書類は通るが、現場の非農家すら高齢化しており、人手不足は解消しない。成功事例も特定のキー



谷地区の棚田

マンの犠牲の上に成り立つ綱渡りだ。

地域丸投げではなく、新設の「草刈り隊」と推進委員をタッグを組ませるなど、町が人手不足の穴を埋める直接的な伴走支援を行うべきだ。

A 要望調査と先進事例の情報共有する

町長塚原隆昭

未整備地は今年度、地域ごとの要望調査を実施し、きめ細かく対応する。多面的機能支払いは、先進事例の情報共有に努める。

推進委員の役割については、研修等を通じて任務をお伝えし、地域で役割を果たせるよう取り組む。

Q 守れぬ農地の現実を国に伝えよ

引き受け手のない農地を「山に返す」判断を迫られる地権者は、先祖代々の土地を荒らす罪悪感に苦しんでいる。町が先頭に立ち、適切に

自然へ還す「前向きな出口戦略」を示すべきだ。

国の「相続土地国庫帰属制度」は10年分の管理費用など金銭的負担が重く、実際には機能不全に陥っている。

現場の冷酷な現実を、島根県や全国町村会を通じて国に強く訴え、制度改善や負担金免除を要望すべきではないか。

A 国への緩和要望に 理解を示す

町長塚原隆昭

維持管理の負担が大きい農地は継続が困難になる場合も想定され、濃淡をつけた土地利用が重要だ。国庫帰属制度は費用がかかり高いハードルがある。

国の制度に対し、負担緩和を求める要望活動をして欲しいという指摘は理解した。10年先を見据え、飯南町の農地をどう守るか真剣に検討していく。

Q 公用車の運行形態と車両管理は

5月に磐越道で、高校の遠征試合に向かうマイクロバスが高速道路でガードレールに激突する事故が発生し、男子生徒1人が死亡し、多数の生徒が重軽傷を負った。

この事故は、部活動等の移動手段の手配と、安全管理が問われる出来事だった。

そこで本町においてレンタカーの利用があるかどうか。また、路線バス、スクールバス、その他の公用車の運行形態と車両管理の現状を問う。

A 業務委託で運行

町長塚原隆昭

業務上において、レンタカーの借り上げはない。

路線バスとスクールバスを除く公用車の運転業務は、町内の交通事業者との委託契約による場合と、町に登録した個人運転手に委託する場合がある。

車両の保守・点検は、運転



町所有のスクールバス

の前後の点検のほか、担当課において点検・車検の管理を行っている。

A 業務委託で運行

教育長大谷哲也

学校関係の活動において、レンタカーの使用はない。

スクールバスや部活動、学校活動は、町が所有するバスを使い、町内の交通事業者及び町に登録した個人運転手に委託して運行している。

車両の保守・点検については、定期的な法定点検のほか、運行している事業者や個人運転手により運転前後に行い、使用記録簿に記録している。

一般 質問

令和8年 6月定例会

町の旗印を示せ

高橋 徹 議員

A 今後も伝えていく

町長塚原隆昭

第3次総合振興計画は町政の最上位計画であり、「生命地域宣言」を基本理念、「笑顔と誇りを未来へつなぐまち飯南」を将来像としてい

Q 町のビジョンを明確に

町は「小さな田舎(まち)からの生命地域宣言」や「笑顔と誇りを未来へつなぐまち飯南」を掲げているが、総合振興計画は範囲が広く、町民にとって将来像が見えづらい。食の自給率100%や農業継承宣言など、より分かりやすい目標を掲げる考えはないか。町民とどのように共有していくのか。

また、中学生と接する中で、町の課題解決に前向きな提案や期待感を強く感じた。人口減少など課題が多い今こそ、本来目指す姿を明確に示し、町民へ伝えることが重要ではないか。



Q 次世代への農地・技術継承は

農業を将来にわたり維持するためには、農地だけでなく技術や経験の継承も重要である。若者への農地や技術の引継ぎ、また、耕作放棄地への対応について、行政はどこまで関わるのか。

実現に向け、行政が取り組むことと町民が取り組むことを明確にし、ともに進めていく考えである。十分に伝わっていない部分もあると認識しており、町政座談会やまちづくり懇話会などで、町の方向性や考え方を丁寧に発信していく。

A 飯南担い手協議会で

町長塚原隆昭

本町の農業継承は重要課題であり、家族間だけでは対応が難しくなっている。そのため、集落営農組織や認定農業者を中心に農地を守る体制へ移行してきた。令和6年度には「飯南担い手協議会」が発足し、地域農業を支えている。

県の新たな支援制度を活用し、集落営農組織による後継者確保や人材育成を進めていく。

耕作放棄地については、担い手への集積や作業受委託を進めているが、全ての農地維持は難しいため、地域で話し



Q モデルハウス古民家を

活用可能な空き家が約200件ある中、町主導で空き家を改修し「モデルハウス古民家」として発信してはどうか。

また、過去の類似事業が継続できなかった理由を問う。

A 町主体では困難

町長塚原隆昭

興味深い提案だが、適切な物件確保や費用対効果など課題もある。現時点で町が主体となつて整備する考えはない。

過去には「定住促進空き家活用住宅事業」を実施し、最大11件の空き家を借り上げ、移住者向け住宅として活用したが、改修費や維持管理費の負担が大きく、令和5年度で事業を終了した。

子どもは地域の宝

岸 光研 議員

Q 青少年に良い教育環境を

先般、プロ野球界の盟主たる球団の監督が逮捕されるというショッキングなニュースが飛び込んできた。家庭内における娘さんとのトラブルであつたと報じられた。昨今、児童相談所と警察の連携が強化され、駆け付けた警察官に現行犯逮捕された。著名人であるが故のニュースであるが、我々の身近なところでもあり得るのかと感ずる。

連日の報道等で青少年に関する事案も多く発生している。高校生が強盗殺人に関与していたことや、わが子を殺害する事件も発生している。このような事案には大人



の勝手な都合で子どもが犠牲となる事例も多くある。子育て教育の第一は、先ずは家庭であると考ええる。それから、学校・地域社会の中で、人との関わり方、自分の果たすべき役割などを身に付けていく。そのような成長過程において、様々な要因により間違つた方向へ進んでいくこともある。もちろん、個々の家庭・プライバシーに踏み込めない面もあるかと思う。幸いにこの地域ではみんな子どもを育てる、見守っていく習慣もある。このような地域の絆を守りながら、より良い子育てのあり方、環境づくりを構築しなければならぬと考えるが、教育長の考えを問う。

A 地域一体となつて取り組む

教育長大谷哲也

総合振興計画の「子育て・教育」の中で「地域で育む人づくり」を掲げている。

「学校運営協議会」いわゆるコミュニティスクールで、学校・家庭・地域が一体となつた人づくり、ふるさと教育、生命地域学による地域とのつながりづくりを進めている。これらの取り組みにより、公民館や地域の皆さんの力をお借りし、健全な育成、郷土愛を育む学校活動が活発であり、感謝している。

また、幅広い団体の協力を得て、飯南町青少年育成会議が設置されており、子どもたち取り巻く環境の改善、明るい家庭づくりの推進、青少年の非行防止、見守り活動にも取り組んでいただいている。

そのほか飯南町特別支援相談ネットワークを設置しており、学校・家庭・福祉部局・医療機関が連携し、きめ細か



な相談支援体制を整えている。

これらの取り組みは「小さな町だからこそできる強み」で、地域の絆を守りながら、よりよい子育て環境をつくるための基盤となると思っ

一般 質問

令和8年 6月定例会

町の資源を活かせ

安部 丘 議員



防災ガイドブックは新情報にも対応しており、改版の必要はない。
警報・注意報にはレベルが付記され、住民が取るべき行動が明確になった。
レベル3以上で告知放送を行い、庁舎や支所を避難所

A 現行の運用で対処

町長塚原隆昭

また、翌日までの警報見通しを示す「時系列情報」や、線状降水帯の2〜3時間前の「直前予測」なども始まった。
本町では運用修正、防災ガイドブック改版、町民周知をどのように進めるのか。

Q 新防災情報への対応を

防災気象情報が刷新され、警戒レベルの表示方法や土砂災害警報の発表基準が変わった。特に土砂災害のレベル3は、レベル4に移行する可能性が高い場合に限られ、避難判断のタイミングが早まる可能性がある。

Q 校外活動と安全確保の両立を

として開設、レベル4で避難指示を発令し、地域の避難所を開設する。
周知は町広報、ホームページ、防災訓練、出前講座を継続する。

磐越道での部活動遠征中のバス事故を受け、国・県が学校の安全確保に関する通知を出した。本町の小中学校は、校外学習や部活動でバスを利用する機会が多く、通知が活動や支援体制に与える影響を問う。

活動を抑制することなく安全を確保するために、運転手との定期面談や軽微な事故でも教育委員会へ報告する仕組みを整えるべきだと考えるが、教育長の見解を求める。

A 連絡と面談を密に

教育長大谷哲也

小学校で年間約80回、中



部活動で使う教育委員会のバス

Q 町資源を活かす戦略を

政府は地域経済の活性化

A 方向性探る

町長塚原隆昭

地域未来戦略は方針段階で、詳細は未定。本町が参画するには、中核企業や広域連携などの要件からハードルが高い。

一方で、神話や漫画などのコンテンツを活かした広域連携の可能性があり、出雲圏域や斐伊川サミットなど既存の枠組みで研究し方向性を探る。

コンサル依存からの脱却を

安部 誠也 議員



Q 高野町へのトンネルは

平成11年に瑞穂・高野インターアクセス、新銀山街道整備促進期成同盟会が結成され活動は続いているが、可能性は。

町は、一昨年10月に庄原市との自治体間交流に関する連携協定を結んでいるが、役場職員だけでなく、町民挙げての交流をすべきでは。

トンネルのルートとして高暮側（高野町）は県道であるが、わが町側の町道小田線を県道に昇格できないか。



町道小田線

A 要望活動や情報交換で

町長塚原隆昭

県への要望活動のほか、令和2年度から広島県と事業の効果や実現に向けた課題等について情報交換している。連携協定をきっかけに、民間レベルでの取り組みが、さらに広がるよう交流の促進に努めている。県道昇格はハードルが非常に高い。



県道下門田泉吉田線（高野町）

Q コンサル依存体質を変えよ

地方自治体の議会において、執行部（首長や役場職員）が政策立案を外部のコンサルタント（コンサル）会社に残し過ぎる問題は、専門知識を補うメリットがある反面、自治体の主体性や職員の政策形成能力の低下を招くとして、批判や議論の対象となっている。

一例として、令和5年度に県内のコンサルに委託してまとめた「観光宿泊交流施設今後のあり方検討」は町民から猛反発があり、その後、所信表明では白紙撤回された。総合振興計画にも「住民主体のまちづくりの推進」「協働のまちづくりの推進」を掲げているが、コンサルに委託して丸投げすることなく、自治体独自の地域特性や「住民の生の声」を反映すべきだ。

A 知識や技術が必要

町長塚原隆昭

計画等で建設候補地の抽出や建設費用の試算など現施設の維持管理経費との比較分析などの作業が必要で、専門的知識や技術が必要だ。技術職員がいない本町は、職員だけでは困難な部分には外部の専門業者の協力を得て策定を進めている。

委託により他自治体などの情報が得られ、専門業者のノウハウも活かし、迅速に作業が進められる。

職員の人材育成という観点からは、企画力を育成したい。計画の目的や内容によっては、外部の専門業者の協力が必要な場合もあり、状況に応じて、よりよい手法で判断したい。

本町の独自性を活かした政策、幅広い町民の声を反映した内容となるよう努める。

のため産業集積計画の素案を公表し、「地域未来戦略」に反映する。国主導の戦略産業、県主導の地域産業、市町村主体の地場産業の3本柱で進む。

中国地方の戦略産業にはコンテンツ産業が含まれ、日本一の大しめ縄や日本画、漫画、絵本作家のゆかりの地として本町も関わられる可能性がある。出雲市など近隣市町と連携し、投資を呼び込めたいか。



総務厚生常任委員会

委員長：景山登美男 副委員長：安部 丘
委員：早樋徹雄 高橋 徹

令和8年度 飯南町一般会計補正予算(第1号)

【歳出】 地域・人づくり事業 480万円

宝くじ助成事業の採択による補助金で、千束自治会と中市下自治会の集会所にエアコンと会議テーブル、照明器具等を整備する。

飯南高校教育支援事業 2808万円

2658万円は、飯南高校支援公用車として45人乗りバスを更新するもので、ふるさと応援基金2640万円を充当する。

150万円は、飯南高校海外留学支援事業として3名分の留学生渡航費および1名の視察用経費であり、みらい人材育成基金90万円を充当する。

感染症予防事業 197万円

インフルエンザワクチン接種の単価変更に伴い、助成額を増額する。

75歳以上は高用量インフルエンザワクチンに変更となることにより、ワクチン単価が昨年の5,100円から9,500円に増額となる。これにより自己負担額も昨年の2,100円から3,800円と大きな増額とすることが示されている。

75歳以上の方に高用量ワクチン接種を推奨していくためにも、自己負担額をこれまでと同程度とするよう求めた。



LED化するさつき会館の外灯を視察

教育経済常任委員会

委員長：高橋英次 副委員長：岸 光研
委員：内藤真一 安部誠也 平石玲児

令和8年度 飯南町一般会計補正予算(第1号)

【歳出】 創業支援事業 210万円

移動販売・宅配支援を行なう新規事業者への補助金。事業費の2分の1は、国の地域商業等支援事業補助金105万円を充当する。

軽自動車を用いて食料品・日用品等を移動販売する。9月の事業開始を目指すとのこと。



大しめ縄より合わせ会場の視察

採決の結果 [6月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	内藤真一	高橋英次	安部誠也	景山登美男	安部丘	平石玲児	岸光研	高橋徹	
農業委員会の委員の任命(14名)	同意	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町税条例の一部を改正する条例の制定	承認	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和7年度飯南町一般会計補正予算(第9号)	承認	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和7年度飯南町病院事業会計補正予算(第6号)	承認	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和7年度飯南町下水道事業会計補正予算(第5号)	承認	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町犯罪被害者等支援条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町行政手続条例の一部を改正する条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町立学校施設使用条例の一部を改正する条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
飯南町みらい人材育成基金条例の一部を改正する条例の制定	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度頓原地区子ども広場整備工事請負契約の締結	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和7年度特別養護老人ホーム建設予定地造成工事(1工区)請負変更契約の締結	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
財産(消防軽積載車)の取得	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
財産(町営バス車両)の取得	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町一般会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町病院事業会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	
令和8年度飯南町下水道事業会計補正予算(第1号)	可決	欠	○	○	○	○	○	○	○	

○:賛成 ●:反対 欠:欠席

議会活動報告

[4月～6月]

4月6日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
8日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
16日 総務厚生常任委員会

5月15日 雲南地域議会議長会連絡会総会
19日 教育経済常任委員会
25～27日 県町村議会議長会臨時総会
全国町村議会正・副議長研修会（東京）
28日 議会運営委員会
（6月定例会の提出議案、日程ほかの協議）
議会広報常任委員会

6月2日 6月定例会：本会議
（町長提出議案の説明、質疑、委員会付託）
5日 ：本会議（一般質問）
8日 ：委員会審査
9日 ：委員会審査
10日 ：委員会審査
11日 ：委員会審査、予算特別委員会、全員協議会
：議会運営委員会（追加日程協議）
12日 ：本会議
（委員長報告、討論、採決、補充委員の選任）

17日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
25日 議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）
30日 雲南広域連合議会臨時会
議会広報常任委員会（議会広報紙編集作業）

全員協議会の報告

令和8年6月11日(木)

- ①新型インフルエンザ等対策行動計画の改定
- ②保育所のあり方検討委員会からの提言
- ③J-クレジットを活用したカーボンニュートラルに関する連携協定
- ④学校再編と志々小学校の統合

田舎だからできる挑戦を

森山 清史さん（下赤名）

飯南町下赤名で移動式トレーラーハウスを活用した理美容室を営む森山清史さん。

奥出雲町出身の森山さんは、高校卒業後に理美容の道へ進み、県の職業訓練校で学んだ後、神戸や島根県内の店舗で約16年間経験を積まれました。

当時、店長として働く中でやりがいを感じる一方、休日もなく家族との時間を十分に取れない日々が続き、子どもの成長を見守りながら暮らしたいという思いもあり、5年前に家族で飯南町へ移住、独立を考えるようになりました。



森山清史さん

しかし、人口の少ない地域で新たに店舗を構えることへの不安もありました。そこで森山さんが選んだのが、全国的にも珍しいトレーラーハウス型の理美容室です。

田舎だからできないではなく、田舎だからできることがある

開業までの道のりは決して平坦ではありませんでした。県内でも前例がなく、保健所の施設基準など、多くの課題がありました。それでも「どうしてもやりたい」という思いで乗り越えてきました。特に天井高の基準を満たすために、トレーラーハウス全体を改造し、約30センチかさ上げする大掛かりな工事も

実施しました。

国道沿いにある銀色に輝く店舗は多くの人の目を引き、松江市や三次市方面から来店されるお客様もおられるそうです。散髪をきっかけに温泉や飲食店に立ち寄る人もおられ、新たな交流の入口にもなっています。

開業から1年半、地域の子どもたちとの関わりも大切にしています。卒業式前のヘアセットや職場体験の受け入れもその一つです。

理美容師ってかっこいいなと思ってくれる子が増えてうれしい

将来について尋ねると、森山さんはワクワクした様子でこう語られました。

「同業者には『そのスタイルをやりたい』という方もおられます。将来的には、こういう店舗を県内に増やしたり、独立したい人の後押しができたら面白いなと思っています。」

最後に、町への思いを聞きました。「やりたいことがあるのに、

店舗の移動式トレーラーハウス



くすぶっている人もいると思うんです。でも、今は補助制度もあるし、挑戦できる環境もあります。だからまずはやってみてほしい。そういう人が増えたら町の空気も変わると思うんです。」

「二人ひとりができることをやっていけば、きっと面白い町になると思います」

その言葉には、未来への確かな希望が込められていました。

今月の表紙写真



「一人ひとりができることをやっていけば、きっと面白い町になると思う」という言葉に、かのケネディ大統領の「何をしてもらうかではなく、自分が何をできるか」という名句を思い出しました。この町は、私たち一人ひとりの思いと動きがある限り、未来への希望もあると思います。

訃報

伊藤好晴議員が逝去

（5月27日逝去 74歳）

伊藤好晴議員は、飯南町議会議員として6期目を迎えられ、旧頼原町議会議員も含め、30年もの長きにわたる議員活動に精進され、議会運営委員長などを歴任し、町政の発展に大きな足跡を残されました。生前のご功績をたたえとともに、心から哀悼の意を表します。

議会広報常任委員会

委員長：安部 丘 副委員長：高橋 徹 委員：安部 誠也 景山 登美男 平石 玲児 岸 光研

飯南町議会事務局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867